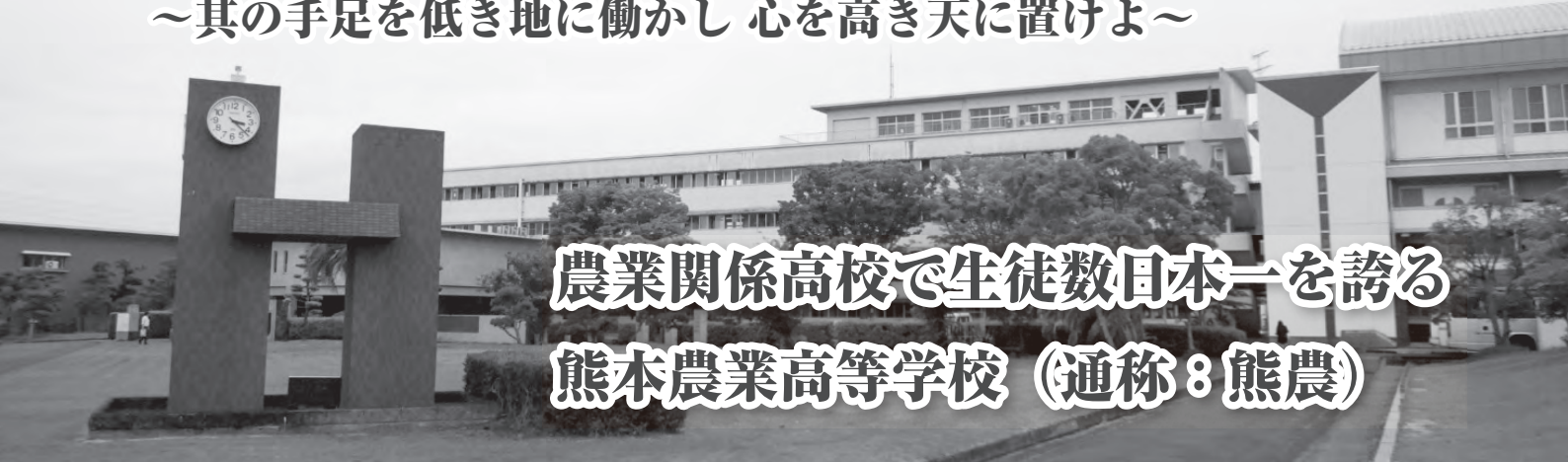


# “敬天愛人”

～其の手足を低き地に働かし 心を高き天に置けよ～



## 農業関係高校で生徒数日本一を誇る 熊本農業高等学校（通称：熊農）

土地改良事業を円滑に推進していくためには、それを担い得る農業農村工学系の若い技術者の育成、確保が緊急の課題となっている。このため、全国の農業農村工学系の教育現場の学校を紹介することにより、関係者の関心を高め、若い技術者の育成、確保につなげることにした。

今回の訪問先は、農業関係高校（全日制）で生徒数日本一を誇り、公務員への就職率が高い熊本農業高等学校（以下、熊本農業高校）を訪れた。現在、農林水産省には約100名（現役のみ農業土木職以外も含む）もの卒業生が在籍している。

訪問者 九州農政局農村振興部設計課 課長補佐	安武 秀一（農業土木科 昭和60年卒）
九州農政局土地改良技術事務所 専門技術指導官	岡村 政廣（農業土木科 平成3年卒）
九州農政局農村振興部設計課 係長	服部 隼人（農業土木科 平成7年卒）
九州農政局八代平野農業水利事業所 係長	林田 大輔（農業土木科 平成12年卒）
九州農政局筑後川下流福岡農業水利事業建設所 係員	森 隼人（農業土木科 平成28年卒）



### ●校訓「敬天愛人」～天を敬い 人を愛する～

農業高校生として、大自然の力を尊いものとして敬い、人（生き物）に対して慈愛をもって接すること。

### ●建学の精神「其の手足を低き地に働かし 心を高き天に置けよ」

しっかりと大地を耕し、地域に根ざしながら、志や理想は高く、上を向いて生きることが大切だという意味。

※熊農初代校長 河村 九淵（ちかすえ）先生が残した言葉



訪問状況

### 1 本校の概要

本校は、明治三十二年に開校し、創立一四四年の歴史と伝統を誇る農業高校です。校訓「敬天愛人」、建学の精神「其の手足を低き地に働かし 心を高き天におけよ」を教育の基本とし、地域や社会を支えるリーダーとして熊本県の農業の中心的な役割を担う農業経営者、グローバルに活躍するリーダーとなる人材を育成する学校です。

現在、農業科、園芸・果樹科、畜産科、生活科、農業経済科、食品工業科、農業土木科の七学科があり、生徒数は、八二八人と農業関係高校（全日制）の中で日本一生徒数の多い学校です。

## 2 本校の特徴やイベント紹介

本校では、学科ごとに専門的な知識や技術を学ぶことができ、様々な資格取得にチャレンジできます。

また、二〇二〇年より県内の農業関係高校一校一分校が（一社）熊本農業法人協会と次世代を担う農業人材の育成や就農促進に向けた連携協定を締結するほか、自動操舵補助システム搭載の大型トラクターと農薬散布用の大型ドローンを導入し、スマート農業の展開に向けた教育を実施しています。

本校の特徴的なイベントをいくつか紹介します。

○**体育大会(五月)**：農業高校ならではの競技が多数あります。中でも魅力的なのが鍬を使った鍬体操（一年）、相撲の動作を取り入れた相撲体操（二年）、東京農業大学で有名な大根踊り（三年）です。

※現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため鍬体操・相撲体操・大根踊りなど多数未実施および縮小



相撲体操の様子



大型トラクター（自動操舵補助システム）



水理実習状況



測量実習状況

○**収穫感謝祭・南園祭(十一月)**：年間を通して動植物の管理実習や学びの過程で得られる収穫の恵みに感謝し、生徒自らで調理したカレーを会食します。（お米やお肉は学校で作られたものを使用しています。）また、南園祭では、実習製品（米、ハム、花、卵など）を直売し多くの地域住民や保護者の方々に好評です。

## 3 農業土木科の紹介

本科では、農業土木設計・測量・農業土木施工・水循環などの専門科目を学ぶことができ、「農業土木」の科名を残す県内唯一の学科です。「公務員合格」と「国家資格取得」を目標に農業と農村・地域を支える技術者を育成する学科です。

○**農業土木科の基本方針・指導目標**

「慮る」人材の育成を基本方針として、公務員希望者は全体の奉仕者として配慮し、業務は考慮し、災害時の対応を憂慮する。就職希望者は、周囲を顧慮し、技術者としてミスがないように千慮する。進学者は、自身の将来を熟慮し、遠慮深謀する。

### 校長 田畑 淳一

本校の校訓は、「敬天愛人」、建学の精神「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」を教育の基本とし、農業教育を通して豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、志を高く掲げ進化を続ける人材を育てるとともに、活気に満ち溢れた学校創りを実践しています。教育スローガン「なす」ことによって学ぶ夢を目標に、挑戦・努力・継続のもと、目指す生徒像として、

- (1) 自分を認め協働する生徒
  - (2) 問題の本質を探り、課題解決に向け積極的に取り組む生徒
  - (3) 夢を目標に変えて、挑戦し努力を継続できる生徒
- 個性を磨くとともに、多様性を認め、周囲と協働して課題を発見し、解決に取り組み、夢を目標に変えて挑戦し努力を継続できる熊農生！を掲げ、生徒一人一人が経験をもとに成長してもらいたいとの思いを込めています。

さて、農業土木科は昭和十九年に創設以来、現在まで「農業土木」を冠する学科として大学進学・公務員や建設業界への就職など、産業基盤となる農地の保全・発展に寄与する多くの農業土木技術者を育成し地域社会へ人材を送り込んできました。特に公務員への合格率の高さは、本科の魅力でもあり入学してくる多くの生徒や保護者も公務員を志望しています。また、関連産業への進学や就職する生徒もおり、偏りがない学科として生徒の進路選択を叶える特色があります。そして、本校で学んだことを生かし不屈の南園魂で、将来の農業土木技術者や地域リーダーとなる資質を磨いて欲しいと考えています。



校長 田畑 淳一

熊本県熊本市在住、矢部高校普通科、筑波大学第二学群農林学類を卒業し、熊本県立熊本農業高校、球磨農業高校、熊本県職員課、高校教育課指導主事・主幹、文部科学省教科調査官、天草拓心高校副校長、熊本農業高校校長を経て、令和4年熊本農業高校校長、現在に至る。



職種	H29	H30	R1	R2	R3
公務員	9	5	11	22	16
公務員 (土木職以外)	2	1	5	1	3
土地改良事業 団体連合会	1	—	1	1	—
土地改良区	—	—	1	—	—
建設会社	9	7	8	4	7
設計コンサル	2	8	3	2	2
その他 (建設業界以外)	4	6	5	5	2
進学 (4年制大学)	3	4	3	2	6
進学(その他)	10	9	3	5	5
合計	40	40	40	42	41

#### 4 業務説明会の開催

今回の母校訪問では、本誌の取材に併せて、農政局の業務説明会を兼ねた内容とし、就職や進学

を控える農業土木科の三年生を対象に実施しました。

まずは、農林水産省・農政局の業務概要説明を行った後に、生徒に農政局の仕事を身近に感じて頂くよう熊本県内の国営事業実施地区の事業概要と併せて事業所での具体的な業務内容について動画等を用いて説明しました。また、国営規模での事業実施事例として九州管内の農業用ダムについてもUAV映像等を用いて紹介しました。

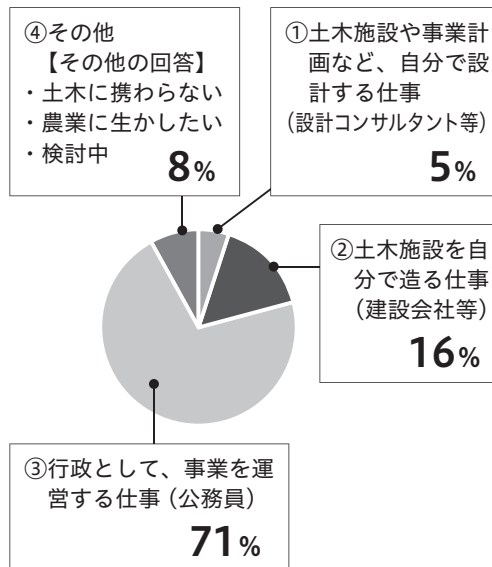
最後に生徒の率直な考えを聞くために今後の将来展望や本校の自慢できる所についてアンケート形式



業務説明会の様子～生徒からの質問～

式で答えて頂きました。アンケート結果は次の通りです。

質問① 今勉強している農業土木の知識を、将来、どのように生かしていきたいかと思いませんか？  
グラフ参照。



#### 農業土木科の先生方



##### 白石 栄二 教諭

平成7年八代農業高校農業土木科卒業、平成11年東京農業大学農学部農業工学科卒業、平成14年熊本農業高校勤務、平成18年南陵高校勤務、平成31年熊本農業高校勤務、農業土木科主任、男子・女子サッカー部顧問



##### 古閑 比呂志 教諭

玉名高校卒業、佐賀大学農学部農業土木学科卒業、民間勤務を経て、佐賀農業高校、伊万里農林高校、阿蘇農業高校、球磨農業高校、八代農業高校で勤務、平成24年より熊本農業高校勤務、農業土木科3年担任、吹奏楽部・測量部顧問



##### 大江田 恭男 教諭

八代農業高校農業土木科を卒業後、宮崎大学農業工学科で学ぶ、阿蘇農業、球磨農業、南陵高校、八代農業と県下農業土木がある全ての学校で勤務、プロジェクト活動も多数指導し行政や地域との連携を大切にしている。高校野球の指導者として30年勤め、現在農業土木科2年副担任。



##### 村富 成人 教諭

平成25年熊本農業高校農業土木科卒業、平成29年鹿児島大学農学部生物環境学科卒業、令和3年熊本農業高校勤務、1年農業土木科担任、相撲部顧問、測量部顧問



##### 江島 智和 実習教師

平成6年熊本農業高校園芸果樹科卒業、平成8年東京農業大学短期学部環境緑地学科卒業、平成14年芦北高校勤務、平成17年熊本農業高校勤務、平成20年北陵高校勤務、令和3年熊本農業高校勤務、柔道部顧問



##### 岩田 圭冬 農務技師

令和4年3月熊本農業高校農業土木科卒業、令和4年4月熊本農業高校勤務

質問② 熊本農業高校(農業土木科)を選んだ理由を教えてください。  
様々な回答があったが、「農業土木(又は土木)」という仕事(学科)に興味があった」が三四%、「将来、公務員になりたいから」が三二%を占める結果となりました。

母校訪問した卒業生



**安武 秀一**

熊本県熊本市出身、農業土木科を昭和60年卒。同年4月に農林水産省に入省。九州農政局及び沖縄総合事務局、関東農政局、農林水産本省勤務を経て、令和3年4月より現在に至る。



**岡村 政廣**

熊本県宇城市出身、農業土木科を平成3年卒。同年4月に農林水産省に入省。九州農政局及び農林水産本省勤務を経て、令和3年4月より現在に至る。



**服部 隼人**

熊本県熊本市出身、農業土木科を平成7年卒。同年4月に農林水産省に入省。九州農政局及び農林水産本省勤務を経て、令和2年4月より現在に至る。



**林田 大輔**

熊本県宇土市出身、農業土木科を平成12年卒。同年4月に農林水産省に入省し、令和3年4月より現在に至る。



**森 隼人**

長崎県長崎市出身、農業土木科を平成28年卒。同年4月に農林水産省に入省し、令和4年4月より現在に至る。

施地区含む）の国営事業が実施されています。

**5 農業農村整備事業**

熊本県内では、現在、五地区（海岸保全事業実

これらの結果は、本校のPRする内容が生徒に認識され、目標ややりがいとして日々学んでいることを表すものでした。本業務説明会では、生徒より「国家公務員採用後の待遇」や「仕事をする上での達成感」に関する質問などが寄せられ、「農政局」を就職先の一つとして真剣に考える生徒の前向きな姿勢を感じました。



八代平野農業水利事業（選拝頭首工）



宇城農地整備事業（受益地を眺める）

質問③熊本農高生として、自慢する所はなんですか？

こちらにも様々な回答があったが、「普通の高校では学べない授業（科目）を、実習を通じて学べる」が四〇％を占める結果となりました。

**6 訪問を終えて**

今後、本事業で整備された施設やほ場等の十分な活用を通じ、本地域が豊かで住みよい農村地域として益々発展していくよう、農林水産省の職員として事業推進に尽力していきます。

今回の母校訪問では、創立一二四年を迎えた本校の歴史と伝統を感じるとともにコロナ禍に直面した先生方の苦勞、生徒たちのもどかしさを目の当たりにしました。

業務説明会に参加頂いた三年生は、入学時からコロナ禍の影響により授業規模の縮小や学校行事の中止・無観客開催などコロナ禍以前の学校生活からは想像できないニューノーマルに対応した取組を実施されていました。

一方、業務説明会では、農業土木科らしい体育会系チックな元氣な挨拶から始まり、生徒一人一人の説明を聞く際の態度や積極的に質問する姿勢、真剣なまなざしを直に見ることができ、伝統ある本校の「南園魂」が脈略と引き継がれていることを感じることができました。

「農業土木」の科名を残す県内唯一の学科として県内の中心的な役割を担うことはもちろんのこと、全国の農業と農村・地域を支える技術者として活躍することを期待するとともに、我々、先輩も頑張らねばと、改めて身が引き締まる思いで母校を後にしました。

ご多忙の中、ご対応頂いた熊本農業高校の皆様、ありがとうございました。